



子どもの事故を予防しよう!

現在わが国では、不慮の事故が子どもの死亡原因の上位となっています。不慮の事故の種類をみると窒息、転倒・転落、溺死及び溺水、交通事故などがあります。

事故の内容は年齢によって異なりますが、周囲が気をつけることで防げるものが大部分です。発育過程の中で、どんな事故が起こりやすいか知っておくことは、事故の予防のうえで大切です。

● 死因順位（年齢別）平成24年

	第1位	第2位	第3位	第4位
0歳	先天奇形等	呼吸障害等	乳幼児突然死症候群	不慮の事故
1～4歳	先天奇形等	不慮の事故	悪性新生物	心疾患

【参考資料：厚生労働省 平成24年人口動態統計の概況より】

1歳まで（寝返りからつかまり立ちの時期）

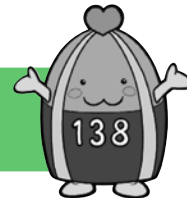
特に誤飲や窒息の事故に注意が必要です。
直径39ミリより小さいものは誤飲の恐れがあるので、
子どもの手の届かない1メートル以上の高さに片付けましょう。



1歳から3歳くらいまで（歩きまわる時期）

少しずつ行動範囲が広がり、事故が起こる範囲も屋内から屋外へ広がります。
屋内ではベランダに出た際の転落事故や浴室での溺れの事故などが起こります。浴槽に残し湯をしないうと、ベランダには一人では出られない等の工夫をしましょう。
屋外では駐車場での事故や自動車同乗中の事故が多く起きています。必ずチャイルドシートを着用するようにしましょう。

冬はやけどに注意!



ポットや炊飯器、ストーブやアイロンなどの事故

子どもは湯気や蒸気に興味をもち、手を差し出してやけどをすることがあります。
⇒子どもの手の届かない所に置き、余分なコードは巻き取るようにしましょう。

お湯や熱い食べ物による事故

食事の支度中やティータイムに多い事故です。
⇒熱い物の飲食は子どもから離れた場所でしましょう。テーブルクロスを引っ張って熱い物をひっくり返さないように工夫するか、クロスは使用しないようにしましょう。

電気あんかや湯たんぽ、カイロなどによる事故

長時間使用し続けると低温やけどを起こすことがあります。
⇒子どもが寝たらあんか類は取り出すようにし、カーペットの電源は切りましょう。

火遊び

点火しやすいライターやマッチは、子どもの目につかない場所にしまいましょう。